

結城市認知症初期集中支援チーム

認知症に関する「早期診断」「早期対応」に向けた認知症の支援体制の強化を図るため、認知症の専門医の協力を得て、保健師、社会福祉士などで構成する「結城市認知症初期集中支援チーム」を設置しています。



どんなことをするの？

結城市にお住いの認知症、またはその疑いがある人やその家族の自宅をチーム員が訪問してお話を伺い、今後の対応策を一緒に考えます。その後、専門医を含む専門チームが支援方針を検討し、必要に応じ関係機関と連携を図りながら、おおむね6か月以内に医療機関への受診や介護保険サービスの利用などにつながるお手伝いをします。

対象となる人は？

自宅で生活している40歳以上の認知症が疑われる人や認知症の人で、次の(1)～(4)のいずれかに該当する人が対象になります。

- (1) 認知症の診断を受けていない人
- (2) 継続的な医療を受けていない人
- (3) 介護保険サービスを利用していない人や中断している人
- (4) 認知症の症状が強いため対応に困っている人



認知症は早期診断・早期対応が大切です。

認知症は早期に診断し上手に対応することで、その後の経過や介護負担も変わってきます。かかりつけ医や認知症疾患医療センター、地域包括支援センターまでお気軽にご相談ください。



＜相談・連絡先＞

東部地域包括支援センター たけだ

(担当地区：結城東中学校区 (絹川地区含む)) TEL：45-5501

西部地域包括支援センター ヒューマン・ハウス

(担当地区：結城中中学校区) TEL：45-8222

南部地域包括支援センター 青嵐荘

(担当地区：結城南中学校区 (絹川地区除く)) TEL：54-6477

結城市地域ケア推進係

TEL：34-0324

日常の暮らしの中で、認知症ではないかと思われる言動を、「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中の目安として参考にしてください。

いくつか思い当たることがあれば、早めに専門家に相談してみましょう。

●もの忘れがひどい

- ☐ 1 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- ☐ 2 同じことを何度も言う・問う・する
- ☐ 3 しまい忘れ、置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- ☐ 4 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う



●判断・理解力が衰える

- ☐ 5 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- ☐ 6 新しいことが覚えられない
- ☐ 7 話のつじつまが合わない
- ☐ 8 テレビ番組の内容が理解できなくなった



●時間・場所がわからない

- ☐ 9 約束の日時や場所を間違えるようになった
- ☐ 10 慣れた道でも迷うことがある

●人柄が変わる

- ☐ 11 些細なことで怒りっぽくなった
- ☐ 12 周りへの気遣いがなくなり頑固になった
- ☐ 13 自分の失敗を人のせいにする
- ☐ 14 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

●不安感が強い

- ☐ 15 ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- ☐ 16 外出時、持ち物を何度も確かめる
- ☐ 17 「頭が変になった」と本人が訴える



●意欲がなくなる

- ☐ 18 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- ☐ 19 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- ☐ 20 ふさぎ込んで何をするのも億劫がり嫌がる